

飯田市 歴研ニュース



News Letter

No. 113

The Iida City Institute of Historical Research

2021年8月1日 発行

飯田市歴史研究所

〒395-0803

長野県飯田市鼎下山538

TEL 0265-53-4670

FAX 0265-21-1173

E-mail iihir@city.iida.nagano.jp



コロナ禍とよばれる非常事態がつづくなか、身近な地域の日常を見つめ直す時間が増えたように思われます。昨年からの延期となっていた第18回地域史研究集会では、日々の暮らしのなかの景観とその歴史をテーマに取り上げます。感染症拡大予防のため、会場定員を40名に限定しますが、オンラインによる参加も受け付けます。多くの方のご参加と実りある議論を期待します。

第18回飯田市地域史研究集会

暮らしのなかの景観

— その歴史と継承 —

9月11日(土)・9月12日(日)

11日(土) 10時～17時

第一部 景観の歴史と文化—国際比較の視点から

問題提起 福村任生(飯田市歴史研究所)

講演「テリトリーオの営みが生んだ景観—その再評価と継承の方法」／陣内秀信(法政大学)

講演「アジアの景をさぐる」／大田省一(京都工芸繊維大学)

コメント「絵図からみた暮らしの景観」／吉田ゆり子(東京外国語大学)

質疑応答・全体討論

12日(日) 9時～12時30分

第二部 魅力ある景観をのこす・つたえる

報告 近世座光寺村の社会と空間／羽田真也(飯田市歴史研究所)

報告 東京・葛飾柴又の文化的景観—調査の方法と課題／中尾俊介(横浜国立大学)

報告 宮田宿の歴史的景観と保全の取り組み／小池勝典(宮田村教育委員会)

報告 古民家を地域にひらく／宮井啓江(九如亭)

会 場 飯田市役所 C棟3階会議室 (定員 先着40名を予定)

資料代 500円(2日間共通) ※高校生以下無料

関連展示 飯田市立中央図書館

受講方法 ①会場での受講(定員40名) ②ご自宅等のパソコンから受講 の2通りあります

※事前申込制 9月10日(金) までに電話、FAX、Eメールでお申込みください

※オンラインでのリモート参加は無料

〔次の専用WEBページからお申込みください <https://yamazatokeikan.org/form/2021sympo/>〕

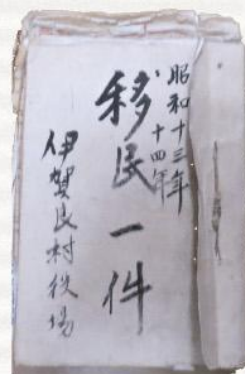
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発熱や咳の症状のある方は会場での参加をご遠慮ください。また感染状況によっては変更の場合がございますのであらかじめご了承ください。

歴研のお仕事 歴史的公文書調査

歴史研究所では、飯田市の公文書の調査・収集にも取り組んでいます。中心は2つあります。1つ目は、市役所の各部署で毎年出される、保存年限が切れて廃棄される予定の公文書の中から、歴史的に重要であると考えられるものを選別し歴史研究所に移管する作業です。移管された文書は、歴史研究所で現物を確認し目録を作成した上で、大切に保管されます。もう1つは、市内の自治振興センターや公民館に所蔵される、合併以前の旧村役場時代の文書（「支所文書」と呼んでいます）の調査・整理です。歴史研究所では、昨年度をもって市内のすべての支所文書の調査を完了しました。この2つの事業は、どちらも共通する大きな課題を抱えています。膨大な文書を補完するスペースをいかに確保するか、そしてその文書を公開するためのルールをいかに作っていくのか、という2点です。すぐに解決できるものではありませんが、少しずつ検討を進めていく必要があります。

平成21年に公文書管理法が制定されて以来、公文書の保存への社会的な注目は高まっています。歴史研究所における歴史的公文書調査は、現在の飯田市の社会、そしてそこに暮らす人々の営みが、数十年後にしっかりと伝わるような史料を後世に残すことを目標にしています。簡単なことではありませんが、その理想に少しでも近づけるように努力したいと思います。

太田仙一（研究員）



支所文書の中には、戦前の貴重な史料も多数含まれています

「飯田御用覚書」を一緒に読みませんか？

近世史ゼミでは、現在、「飯田御用覚書 第三番」を読み進めています。「飯田御用覚書」（原本は下伊那教育会所蔵）は、飯田藩堀家の重臣（用人）が職務に関わる日々のできごとを、日記のように記録したものです。そのうち「第三番」は、現存の「御用覚書」の中でもっとも古いもので、延宝2（1674）年2～12月の記事が掲載されています。堀家が寛文12（1672）年に烏山から移ってきた直後であり、藩の体制が整備されていく状況や、領地支配の様子、近隣の幕領代官や旗本との関係、江戸藩邸との頻繁なやりとりなど、17世紀の飯田藩や飯田・下伊那の姿を詳しく知ることができます。



近世史ゼミの様子

ゼミでは、毎回、1日分くらいを取り上げ、ゆっくりとしたペースで、みんなで意見を交わしながら理解を深めています。そもそも17世紀の史料が少なく、また「御用覚書」自体これまであまり研究に利用されてこなかったため、次々と新たな発見に出会っています。

古文書に慣れていなくても大丈夫です。私たちと一緒に「飯田御用覚書」の世界に浸りませんか？少しでも興味をもたれた方は、ぜひ歴史研究所へご連絡ください。

担当者：羽田真也（歴史研究所研究員）

開講日時：毎月第2・4水曜日18:30～20:30

会場：歴史研究所研修室

満洲農業移民地視察に参加した山田阿水

本島和人（調査研究員）

あの日から 76 回目の夏をむかえた。8 月という季節に限らず研究テーマとする問題がいつも頭のどこかに引っ掛かっている。そのいっぽうで今の身近な関心事はやはりコロナ禍と東京オリンピックである。緊急事態宣言下の無観客のオリンピックは「安心安全」に終るのだろうか。

1938 年（昭和 13）5 月、下伊那郡町村長会は 1 村 1 名の村長ら 40 名が参加して満洲農業移民地視察を行った。この視察についてまず取りあげられるのは、報告書の「むすび」（羽生三七の筆による）の一節「困難は伴ふが満洲農業移民は、国策的見地からも亦経済更生の観点からも人に勧め得る確信を得た」である。その後の下伊那の満洲移民送出に明確な方向を示した。もう一つは現地で五族協和の虚妄を見抜き「分村移民を拒否した」大下条村長佐々木忠綱である。この 2 人により下伊那の満洲移民の影と光が対照される。佐々木の存在は下伊那の良心を示すものではあるが、この時代の実態を知ることにはならない。視界を広げ、より多面的な検証が必要だろう。



1938 年 5 月 15 日、出発前の下伊那郡町村長会一行（『満洲農業移民地視察記念帳』飯田市歴史研究所蔵）。佐々木忠綱（3 列目左から 2 人目）、羽生三七（同 3 人目）、山田阿水（前列左から 5 人目）。

この視察には飯田市議であり信濃大衆新聞社長の山田阿水も参加していた。阿水は帰郷後、「中部公論」（1938 年 8 月号、14 ～ 15 頁）に満洲移民の今後についての所感を書いている。「この国策は万難を排して遂行さるゝであらふ。国民は、これに批判的態度を以て臨む余地はなく、只国策に順応して、国策に良果を結ばしむることを、心掛くるの一途あるのみである」と懐疑的とも諦めとも受け取れる心情を記し、「差しあたって、移民は部落又は村の自治といふようなことは考え得られないとしても団長や指導者は少なくとも、文化人としての移民の気持ちを汲み取る心の余裕ある者でなくてはならない」と結んでいる。阿水も国策に従うしかなかったが、かろうじてジャーナリストらしさを示した。翻って私たちは自治を我ものにしているだろうか。すでに知られている史料や文献をどう読むのか、再検討することは重要な課題だと思う。

新スタッフ紹介

特任研究員になりました

最新研究を学び新たな発見の発信を！

竹村雄次（特任研究員）



4月から、特任研究員となりました竹村雄次です。これを見て、「あれ？」と思う方もあるかもしれません。実は、2号前の歴研ニュースに、「市民研究員の紹介」という記事で自己紹介を書かせてもらいました。その後、特任研究員ということで、研究所に常勤させてもらえることになりました。貴重な史料と共に過ごす日々は、発見と感激の連続です。それだけでなく最新の研究や研究方法を学ぶ機会にもなっています。史料の保存法、目録の取り方、とらえ方、解釈の仕方。研究の最前線を知るとは、今まで自己流に行ってきた自分の研究に、新たな発見を与えてくれています。「この史料は、こんな考え方ができ、次にこう繋がっていく」そんな体験ができています。

2号前の自己紹介にも書きましたが、自分の研究対象は、明治大正期の文化、思想などです。これまでの歴史研究所ではあまり研究されて来なかったジャンルですが、下伊那先人の研究者が残した財産を大切に引き継ぎながら、新たな研究をしていきたいです。特任研究員になって、特に頑張っていきたいことは発信です。わかったこと、史料の新しい見方など、どんどんアウトプットして行けたらと思います。

二・二六事件とその時代

講師

すざき しんいち

須崎 慎一さん（神戸大学 名誉教授）

講師より

東京地検記録課で限定公開された「二・二六事件裁判記録」を精査し、2003年刊行した拙著『二・二六事件—青年将校の意識と心理—』（吉川弘文館）をもとに、天皇・天皇制のあり方が変容するきっかけとして二・二六事件を考えていこうとする試みです。北一輝の影響を受けた青年将校といった教科書の見解を否定し、出来るだけ一人一人の青年将校の思いを紹介しつつ、二・二六事件の全体像に迫っていきたい。とりわけ青年将校側に狙われた人々が、陸軍内の「統制派」と皇道派の「対立」の図式とは異なり、殺害されたのは渡辺錠太郎陸軍大将だけでした。それも陸相官邸に来てもらおうと行ったところ、渡辺から銃撃を受けたので殺害に及んだという事実は、この事件の構造を考える上で示唆に富んでいるのではないのでしょうか。

日時

10月16日（土）

第1講 13:30～15:00

1920年代—地域ファッショ運動の萌芽と青年将校の思い—

第2講 15:20～16:50

三月事件、満洲事変、十月事件、五・一五事件と青年将校運動

10月17日（日）

第3講 10:00～11:30

「上長を推進して維新へ」路線と天皇周辺の反発の強まり

第4講 13:00～14:30

二・二六事件の勃発と鎮圧—近代天皇制国家の変容へ—

会場

上郷公民館 2階講堂

資料代

500円 ※高校生以下無料

※1講義のみでもご参加いただけます。

☆飯田アカデミアは、歴史学における第一線の研究者に、最新の研究成果をわかりやすく紹介していただくものです。

受講方法

①会場での受講（定員40名）

②ご自宅等のパソコンから受講

いずれも、10月8日（金）までにお電話（0265-53-4670）でお申込みください。

その際に受講方法等についてご案内させていただきます。※日曜日・月曜日・祝日は休所

歴研ゼミ&ワークショップ8月・9月の予定

受講生募集!!

会場：歴史研究所 研修室 ※満洲移民研究ゼミは8月は中央公民館、9月は鼎公民館にて開催します。

建築史ゼミ

担当：福村任生（研究員）

8月20日/9月17日

（第3金曜日）19:00～21:00

近世史ゼミ

担当：羽田真也（研究員）

8月11日・25日/9月8日・22日

（第2・第4水曜日）18:30～20:30

近現代史ゼミ

担当：田中雅孝（特任研究員）

9月25日

（第2・第4土曜日）10:00～11:40

※8月9月は予定が変更になっています

思想史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場

8月4日・18日/9月1日・15日

（第1・第3水曜日）19:00～21:00

満洲移民研究ゼミ

担当：本島和人（調査研究員）

齊藤俊江（調査研究員）

第117回 8月7日 / 第118回 9月4日

（第1土曜日）10:00～11:40

地域史ゼミ

担当：太田仙一（研究員）

8月13日/9月10日

（第2金曜日）18:30～20:30

定例研究会

時間：14:00～16:00 ※聴講ご希望の方は歴史研究所までお電話ください

近世座光寺村の社会と空間

開催日：8月21日（土）

報告者：羽田真也（研究員）

会場：伊賀良公民館 202中会議室

伝馬町と平田国学・不二道

開催日：9月18日（土）

報告者：竹村雄次（特任研究員）

会場：鼎公民館 学習展示室

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL：0265-53-4670

研究集会、各種講座、アカデミア、ゼミについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発熱・咳などの症状のある方やマスクを着用されない方の受講はご遠慮ください。また、今後の感染状況により、延期または中止をする場合がありますのであらかじめご了承ください。

開所時間：午前9時～午後5時 休所日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日

メール配信への切り替えをご希望の方は、E-mail: iihr@city.iida.nagano.jp まで